

青年海外協力隊員として

マダガスカルで養護指導

自らも成長した二年間



林 さゆりさん
(美乃和)

林さんは、アフリカ大陸南東に位置するマダガスカルで青年海外協力隊員として活動。昨年9月、2年間の活動を終えて帰国した。

林さんが、海外に興味を抱くようになったのは、中学生の時に経験した米国ビーバートンへのホームステイがきっかけだった。その後もたびたび海外を訪れ、大学卒業後は障がい者施設で実務経験を積んだことから、海外での障がい者支援に携わる隊員を志望した。

林さんの配属先は、6歳から35歳までの知的障がい者40人が通う教育施設。林さんは、生徒の指導だけでなく、障がい児教育の知識が不十分な指導者に対しても指導を行うという任務にあたった。

初めのうちは、言葉も通じず、若い未婚の女性ということで受け入れ

られないこともあったと語る林さん。しかし、「私は私なりに教えるから見ていてほしい」と、熱心に取り組み、次第に指導者として信頼を置かれる存在になった。マダガスカル語は、子供たちと一緒に授業を受けながら学ぶなど、当初は自らも勉強しながらの活動だったという。

林さんが一番力を注いだのが、作業学習の導入だ。生徒が自立し、将来生計を立てていけるよう、紙ネットクスや布草履、芋けんぴなどの作り方を教えた。そして、生徒や指導者に評判の良かった紙ネットクスは、でき上がった商品を学園長と一緒に持って回り、置いてくれる店を探した。結果、2件の店で置いてくれることになり、生徒たちの自立に向けた手助けをすることができた。

人と関わることの素晴らしさを改めて感じたという林さん。自ら考えた指導法が受け入れられ、彼らが成長していく姿を見ると、自分自身も大きく成長できたという。また、マダガスカル独特の、のどかさ、子供らしさといった風土や、何気ない小さなことにも感謝する人々に接することで、今まで気づかなかった感謝の気持ちにも気づくことができたという。

今後とも障がい児と関わる仕事に就き、子供の成長の手助けをしたいと語る林さん。笑顔の中にも、強い信念を感じる事ができた。経験を生かした今後の活躍に期待したい。



我が家のアイドル



稲葉 ひなちゃん(左)(2歳5カ月)
父・晴樹さん/母・みゆきさん(新橋)

歌や踊りが大好きなひなちゃん♪沙弥ねえねと一緒に踊っている時が一番楽しそうだね☆



臼井 千陽ちゃん(9カ月)

父・敦さん/母・恵美さん(中山上)

元気いっぱい千陽ちゃん♪これからもカワイイ笑顔をたくさん見せてね☆

市の人口

12月1日現在 合計 90,334人(前月比+8人) 男 46,261人 女 44,073人
(外国人登録を含む) 世帯数 34,993世帯(前月比△1世帯)

障がいのある人のための、カセットテープと点字による「広報ごてんば」もあります。問い合わせ/社会福祉課 ☎(82) 4238

この広報紙は、再生紙を使用しています。